



和水町古墳祭企画委員長
木部 礼一 さん

古墳祭をとおして、素敵な思い出をつくってもらいたい

和水町古墳祭企画委員長、木部礼一さん。木部さんは、和水町でガソリンスタンドを営まされています。また、和水町商工会副会長や、地域学校協働活動推進員を務めるなど、多くの場面で和水町に貢献してくださっています。

木部さんが古墳祭に深くかかわるようになったのは、商工会青年部の副会長として、ビアガーデンの運営について古墳祭の企画会議へ参加したことがキッカケだそうです。当時の企画会議では、「何のために祭りをするのか」という、祭りにとって最も大切な部分について時間をかけて会議を行ったということです。その中で出てきた答えというのは、「祖先を敬い、郷土を愛する」という、古墳祭の原点に立ち返ることの必要性でした。古墳祭の行事も和水町が歩んできた史実に則ったものをするようになりました。そこで、「江田船山古墳」の主であったと推察されている、「地方豪族ムリテ」を登場させることになりました。

木部さんは初代ムリテ役を引き受け、祭りの中で舞があり、随分苦労されたということでしたが、その大役を見事に果たされました。

その後も数年間にわたりムリテ役として出演され、古墳祭に深く関わった経験をいかし、今は企画委員長として祭りの運営に携わっておられます。

木部さんは、自分が子どものときに参加した古墳祭の思い出が最も強いとおっしゃいました。江田川での魚のつかみ取りや、自分の母親が婦人会として、催しものに参加する姿を見たのはとても楽しい思い出だそうです。「古墳祭では地域の皆さんに、特に子どもたちに、自分の住んでいる地域で楽しい思い出をつくってもらいたい。子どもたちに感じてもらえる部分が、少しでもあればとても嬉しい。」と、笑顔で語ってくださいました。

協力隊活動記 Vol.54

こんにちは。地域おこし協力隊の大木です。今回はじめて広報紙用のインタビューをさせていただきました。協力してくださった木部さん、本当にありがとうございました。和水町古墳祭、初めて参加させていただきましたが、僕も思い切り楽しみ、素敵な思い出をつくりたいと思います。